

JET からの手紙

ディベートで言語と文化を学びましょう！

福井県立高志高等学校 外国語指導助手

Jacob Shanahan (ジェイコブ・シャナハン)

全ての状況は異なる

2021年11月、日本に到着した時、厳しい入国手続きと新型コロナウイルス感染症の検査の連続でした。僕はアメリカで6年間歴史と社会の教師をしていました。それと同時に、日本語の勉強を始めたばかりでした。どれだけ準備しても、準備不足だと感じました。JETプログラムの参加者なら誰でも「ESID (Every Situation Is Different: 全ての状況は異なる)」というフレーズを知っています。どれだけ調べても、同じ経験をするJETプログラムの参加者は2人といません。到着後、他の新しい参加者とともに東京のホテルで2週間隔離され、その後、ついに日本の「恐竜王国」福井に到着しました。

チームとの出会い

僕は何事にもオープンな心で臨むという気持ちで日本に来ました。12月に高志高校に到着した時には不安でしたが、新しい赴任先である高志高校についてもっと知



福井駅の外

れることを楽しみにしていました。最初の週のある雪の日、同僚が「それでは、チームを紹介しましょう！」と言いながら僕を4階のCAI教室に連れて行ってくれました。彼が何を意図しているのかわかりませんでしたが、とにかくついて行きました。そこは「English



高志高校

Speaking Society (ESS)」の集まる場所でした。多くの英語クラブとは違い、このクラブは英語ディベートに完全に焦点を当てています。僕はアメリカでディベートの経験はありましたが、それはもっと軽いものでした。

新しく到着したばかりで、文化と言語の壁を乗り越えるのに苦労していました。高志高校の生徒は素晴らしく、先生たちも親切で歓迎してくれましたが、自分の日本語のレベルが十分ではなく、効果的に話せませんでした。ディベートの経験不足と言語の壁で、「今議論しているトピックは何ですか？」と尋ねる時はとても不安を感じました。生徒はすぐに英語で「日本政府は、首都機能を東京の外に移転すべきである。賛成か反対か」と答えました。それ以降僕は、スピーチを直したり、質問をしたりしながら、アメリカで教えていた時と同じように、生徒たちの準備を手伝い始めました。



高志高等学校英語セミナー
「SNS」と「AI」についていくつかの視点からディスカッションを行いました

生徒たち

新しい国に移り住むことは、それ自体がとても孤独な経験です。多くのALTは「JETプログラムに応募することは間違っていたのか？ここにいていいのだろうか？」と自問する瞬間があります。しかし、高志高校の素晴らしいスタッフ、先生、生徒のおかげで、僕は一度も孤独を感じたことはありません。ディベートの生徒たちとの出会いが、日本で初めて生徒とつながるきっかけでしたが、それが最後ではありませんでした。現在、毎週7つのディベートの授業とESSを教えています。これらのクラスの全ての生徒が、さまざまなディベートや議論に参加しています。高志高校では、「死刑制度」から「ドラえもんはのび太を甘やかしているのか？」まで、英語であらゆることを議論しています。また、「オーバーツーリズムの問題に対して日本ができること」などの真剣なトピックから「ラーメンと寿司、どちらが優れているか？」などの日常的な話題まで議論します。

ディベートを通じて、生徒たちは言語習得の多くの領域を練習します。スピーチを書く練習をし、英語と日本語の両方で調べ、相手のスピーチを聞き、自分の意見を述べる練習をします。教師として生徒とつながる上で僕にとっても多くの利点があります。さまざまな議論やディベートを通じて、深い会話ができるようになりました。僕は内気な生徒が自信のある態度に変容するのを見てきました。全国大会の出場資格を得た時、生徒たちは大喜びし、さらに熱心に準備を始めました。

2021年に初めてCAI教室に入った時は、おとなしいながら友好的に歓迎してくれる雰囲気でした。しかし、

全国大会への準備が始まってからは、まるで生徒たちが戦いの準備をしているかのような感じでした。書類が散らばり、グラフが視覚的に効果的かどうかを議論し、卒業生のアドバイスを受けていました。

僕は幸運にも栃木での全国高校英語 福井駅の中

ディベート大会に出場する生徒をサポートすることができました。僕がALTとして働き始めた2021年には、2年後に「日本政府は代理出産を合法化すべきかどうか」について議論するために福井から栃木への2日間の旅に15人の日本人生徒と参加するなど想像すらできませんでした。

現状

僕と生徒たちは一緒に、ディベートの全国大会に参加する準備をしています。中には初めて試合をすることを楽しみにしている生徒もいます。僕は日本での生活、友達、教えている生徒たち、そして一緒に働いている素晴らしい同僚との生活を楽しまれています。ディベートを教えることで、僕は生徒たちとの貴重な絆をつなぐことができました。これからも生徒たちに教え、日本について学び、日本語がうまくなりたいと思います。日本と福井県での毎日は、これまでずっと、そしてこれからもずっと楽しい冒険です。

プロフィール



Jacob Shanahan
(ジェイコブ・シャナハン)

アメリカ合衆国オクラホマ州生まれ。オクラホマ州立中央大学で歴史教育の学士号を取得。JETプログラムに参加する前は、アメリカで6年間世界史と社会科を教えた。日本語の勉強を続ける予定で、国際関係や歴史に関連する大学院の学位の取得も目指している。

